



震災を乗り越えて



自主防災組織

明石市では、震災を教訓に平成7年12月に「災害に強いまちづくり計画」を策定し、計画に沿って防災機能の強化をはかっています。

海水利用消防システムの導入、防災行政無線の配備を終えたほか、市内10か所に建設を予定する備蓄倉庫が、すでに5か所で完成するなど、市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを着々と進めています。

また、震災でその重要性が注目された、地域での助け合いが、緊急時にも生かされるように、地域住民でつくる自主防災組織を育成、支援しています。



備蓄倉庫（朝霧公園）



34

大蔵朝霧線（写真中央の大蔵海岸から大蔵谷インターまで延びる南北道路）



藤江鳥羽線



二見土山線

地震発生当初、道路損壊や通常の何倍もの車両数による交通渋滞で、救急、消火、救援活動が阻まれました。

震災後の明石市では、災害時の緊急活動が円滑に行える、南北道路を中心とする広域的道路網の整備が飛躍的に進んでいます。大蔵朝霧線、二見土山線などが、国道から第2神明道路への利便性の高いアクセス道路となっているほか、山手環状線や藤江鳥羽線などは災害時の防災幹線道路としての役割を担います。

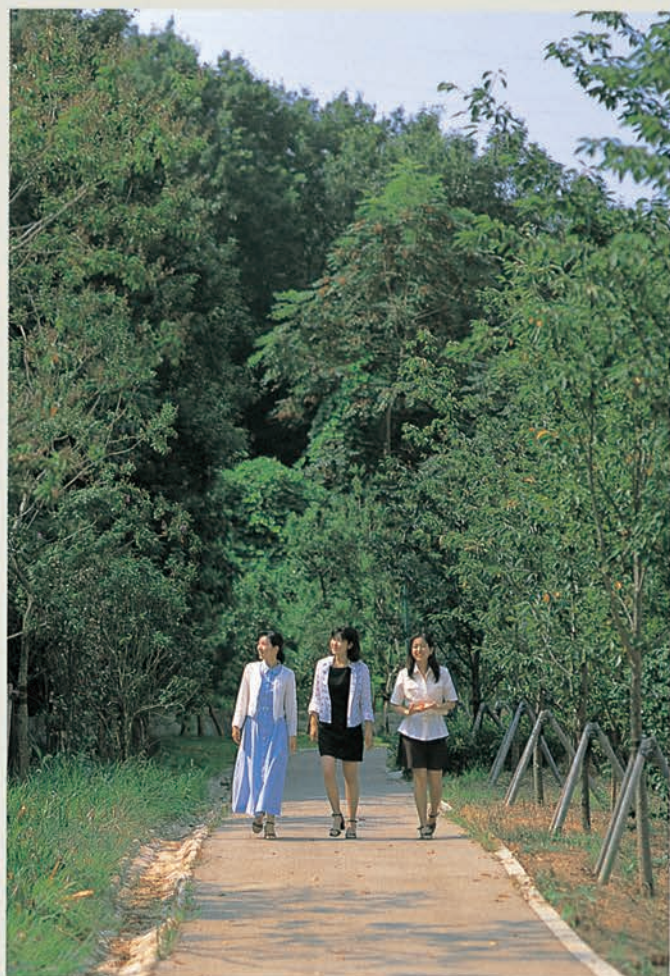


36

大蔵海岸



農業用ため池を貯水池として整備した亀池



金ヶ崎公園

都市における水と緑のオープンスペースは、平常時には憩いの場に、災害時には避難地あるいは救援、復旧活動の拠点となりうる、市民の財産です。

約16^{キロメートル}の海岸線に沿う明石市には、6河川が流れ、また100か所以上のため池が点在しています。明石市では、これら海岸、河川、ため池で防災対策事業を講じながら親水空間を生み出しています。

中でも、平成10年春、明石海峡大橋の開通に合わせて完成した大蔵海岸は、大きな集客力をもつ海岸公園であるとともに、海岸防災の面で高い機能性を併せもった海岸になっています。



海峡まつり'98フィナーレ（平成10年8月23日、大蔵海岸）



中尾親水公園

明石市では、平成3年度から「第3次長期総合計画」に沿って、21世紀のまちづくりを視野に、様々な施策を推進しています。明石市は、そして明石市民は、震災に屈することなく、一步一步着実に、都市基盤を整え、人と人とのつながりを深めながら、21世紀を迎えようとしています。

さらに、現在策定中の「第4次長期総合計画」では、これまでの成果や教訓の上に立って、ソフト面の施策をより強化し、交流から生まれる活力を生かす「海峡交流都市」の実現をめざします。



新清掃工場、明石クリーンセンター

震災を乗り越えて



新たな時代へ時を刻む天文科学館

兵庫県南部地震は、私たちが経験したことのない大災害でした。しかし、私たちが忘れてはならない多くの教訓も残しました。

市民の力を結集し、ひたすら復興への道のりを歩んだ5年間。ほぼ震災復興を終えた明石のまちは活気を取り戻し、そして、ぬくもりと潤いを新たに、21世紀に向け時を刻んでいます。